

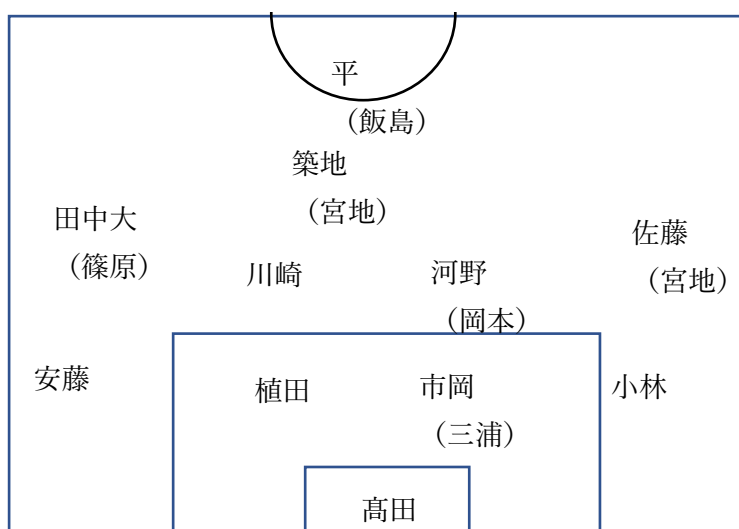


試合結果

$$\text{丹羽 } 4 \left[\begin{array}{c} 3 - 1 \\ 1 - 0 \end{array} \right] 1 \text{ 犬山}$$

前日までの雨に加えて第二試合ということで、グラウンドはぬかるみ状態である。前節、苦しみながらも終盤に同点に追いつき、勝ち点1を獲得した流れに乗って、是非とも勝利したい一戦である。

立ち上がりから、グラウンド状況を意識した数少ないタッチのパスを主体とした攻撃が功を奏し、開始5分にキャプテン築地の強烈なボレーシュートが相手ゴールに突き刺さった。22分にDFとGKの連係ミスから同点に追いつかれるが、27分には副キャプテンの川崎のボレーシュートにより再び





ードすることができた。サイドへの展開を重ねる中で、32分にはトップの平がその裏を突いてドリブル突破を成功させ、追加点をあげた。

後半は終始相手を圧倒し、交代出場のメンバーを含めて、全員が活躍する試合展開となった。そんな中で生まれた4点目は、築地 — 佐藤を経由して平が放ったシュートのこぼれ球をSBの小林が押し込んだものである。悪コンディションにもかかわらず、パスと走力を生かした理想的な得点といえる。前日の降雨の中、平然と練習に励んでいたチームの精神的な成長が形になって表れたとも思える連携であった。

今節は、「少ないタッチ数で、トップにボールを預けてサイドに展開する。」という監督の指示を忠実に実行できたことが第一の勝因であるとともに、チームとしての成長を感じることができた。どんなチームも常に勝つことは難しいが、丹羽高校サッカー部が幾多の経験を重ねる中で、この先も成長し続けることを願う。

〔 文章 2年：田中遥斗
監修 部長：若原隆男 〕